

ケアシノスリの越冬生態について基礎的観察

吳建平 · 魯長虎 · 李飛

(東北林業大学)

訳 福井和二

摘要 1991年から1996年の6年間、ハルビン市の郊外で冬季におけるケアシノスリの基礎的観察を行ない、18羽の標本を採集した。ケアシノスリは冬鳥として10月から4月初めまで中国北方地域で越冬し、農耕地、荒野、村落周辺など開けた環境で普通に観察される。通常は4種のネズミ類を食し、ほかに小鳥(8種)を捕食するのを観察した。採集された標本によって、3段階の年齢による明らかな体型上の違いがあった。

ケアシノスリ (*Buteo lagopus*) は中型タカ類の中でもやや大型に属し、国内分布は新疆省、東北地方、東部沿海各省で、東北地方で通常見られるのは北方亜種 (*B. l. kamtschensis*) である。ケアシノスリの越冬生態に関する国内の報告は少なく、この鳥の状況はまだよく知られていない。われわれは、1991年から1996年の冬季にハルビン市郊外で越冬期の習性について観察を行ない、これに必要な標本18羽を黒龍江省並びに吉林省吉林市において採集し、性別、年齢について分析した資料を整理して以下のように報告する。

1. 滞在状況

少数の学者(傅桐生等^[1], 趙正階等^[2])によつては黒龍江省と吉林省では留鳥であるとしているが、別の学者(鄭作新^[3], 馬建章^[4])は、国内で巣が発見されてないことから、冬鳥であるとしている。ハルビン郊外に

表1 ハルビン市郊外におけるケアシノスリの越冬期間

	1991	1992	1993	1994	1995	1996
初見月日	11.1	11.10	10.26	—	10.5	10.25
最終観察日	3.20	—	4.3	4.5	—	4.1

における6年間の観察によると、ケアシノスリは10月から翌年4月初めに至る冬季のみ観察され、夏期には全く

記録されなかった(表1)。これにより冬鳥と認めるべきである。

2. 生息環境と行動習性

ケアシノスリは平原と開けた山林で見られるが、最も普通には荒野、耕地、村落周辺で観察され、その活動範囲内には、まばらな樹木、あるいは楊樹の並木及び電柱などがある。冬季におけるケアシノスリの行動範囲は非常に大きく、一般的には、1個体が上記の環境の中で行動し、通常一つの村落の周辺の耕地や荒野に1~2羽のケアシノスリが見られる。空中で旋回し、時にはホバリングする。荒野の大きな土饅頭の上に停っていることもある。一日のうち最も活動的になるのは夜明けと日暮れ時である。

ケアシノスリが行動する環境の中には、他に鳥類8種が見られた。村落付近で主に見られるのはハシブトガラス (*Corvus macrorhynchos*)、カササギ (*Pica pica*)、スズメ (*Passer montanus*) で、耕地と荒野で見られるのはトビ (*Milvus migrans*)、オオノスリ (*Buteo hemilasius*)、シベリアジュリン (*Enberiza pallasi*)、ツメナガホオジロ (*Calcarius lapponicus*)、ユキホオジロ (*Plectrophenax nivalis*) などであった。野外ではカラスとカササギがケアシノスリに対するモビ

ングをよく見かけた。通常ケアシノスリは反撃することなく身をかわして飛び去る。カラス科の鳥類はケアシノスリのほかトビ、オオノスリなど、その他の猛禽類に対してモビングを行なう。ケアシノスリと同時に採集された1羽のオオノスリの胃内容には2匹のドブネズミが確認され、ケアシノスリと同様の食性であるこの2者が、食物の上で競合関係にあり、野外観察においてもこの種間には明かにテリトリーを分け合う行動が見られた。トビは、ケアシノスリと同じ環境に生息するが、この種間にはテリトリーをかまえる行動は見られなかった。

3. 捕食行動と食性

捕食行動は日没前2~3時間の間に行なわれることが多く、12月は13:00~16:00時の間が最も多かった。20~30mほどの上空を旋回し、上昇気流に乗って空中に停止し、ときたま羽ばたいてホバリングすることがある。空中に停止するときは、頭を下へ曲げ地面を注視する。その後高度をかえて飛び去る。最も長時間のホバリングは20分で、5~10分が普通である。たまたま獲物を見つけると、両翼を縮め、獲物に向かった急降下し、地上1m位のところで両足を前に伸ばして獲物を鷲づかみにし、その場で食べるか、あるいは他の所へ持ち去って食べる。

採集した18羽のうち、8羽の胃の解剖所検では、ケアシノスリの冬季の食物は、4種のネズミと小鳥であった(表2)。

表2 ケアシノスリの冬季の食物(胃内容分析)

標本番号	9101	9202	9401	9402	9404	9504	9505	9601
食物類別	黒線姫鼠1 大倉鼠 1	褐家鼠 4 小鳥 1	田鼠 spl 小豆粒 1	無食物	褐家鼠 2	田鼠 spl 大倉鼠 1	大倉鼠 1	黒線姫鼠 5
消化状態	未消化姫 鼠表皮	完全消化 頭骨羽毛	完全消化 頭骨羽毛	—	完全消化 頭骨羽毛	完全消化 頭骨羽毛	半消化 状態	未消化

黒線姫鼠 *Apodemus agrarius* 褐家鼠 *Rattus norvegicus* 大倉鼠 *Cricetulus tryon*
田鼠 sp *Microtus* 属

4. 年齢構成と識別

解剖所見による性別と大学所蔵の標本の記録をつき合わせて、採集された18羽のケアシノスリの年齢を3段階に分けたところ、成鳥11羽、亜成鳥4羽、幼鳥3羽であった(表3)。

成鳥、亜成鳥、幼鳥の三つの年齢段階は羽色による識別が比較的容易にできる。幼鳥は、羽色の黒白がより明確なので、一般の人々が俗称「芦花」(ヨシの花)という、解剖により性腺の雌雄識別がつきにくいものを当歳の幼鳥とした。亜成鳥の羽色は成鳥と幼鳥の中間にあり、黒色羽の斑点がやや灰褐色で、黒白の対比が明確でないものは、2~3歳の個体であり、性腺は雌雄判別可能であるが、小さく未発達である。成鳥は多くの書物に書かれている通り、羽色は灰白色で褐色の斑紋がある。精巢、卵細胞が大きく発達し、容易に雌雄の識別ができる。上述の3段階年齢の羽色変化の状態は、当然、各部の羽毛に変化があるが、とりわけ尾羽背面の横斑の変化が特徴的である(図1)。

成鳥の尾羽は基部が白色、次に広く濃い褐色部分があり、先端にわずかに白色部分があるか、あるいは擦り切れて見られないものもある。幼鳥の尾羽は白色の基部の先に極めてはっきりとした黒色、褐色の四つの帯状斑があり、先端が明確な白色である。亜成鳥は、この四つの帯状斑の境界線が不明確になり、二つの濃い褐色斑となる。先端の白色は、幼鳥と変わらない。

年齢3段階の体重、体長などは明確な差はなかった。15羽による雌雄性比は8:7であった。

5. 考察

ケアシノスリはハルビン市郊外の開けた環境で常に見ることのできる大型の猛禽である。冬季5～6カ月の長い間滞在し、主にネズミ類を捕食する。これによってケアシノスリは冬季の開かれた環境のなかで、ネズミ類の繁殖を抑制し、生態系のバランスを維持する重要な役目を担っている。

表3 ケアシノスリの標本採集状況と年齢組成

標本番号	採集地	採集時間	性別	採集地環境	年齢
9101	ハルビン市外	1991. 2. 7	♀	荒野	成鳥
9102	ハルビン市外	1991. 2. 7	♂	荒野	亜成鳥
9201	黒龍江省尚志市帽ル山	1992. 1.17	♀	耕地	成鳥
9202	ハルビン市外成高子郷	1992. 1.29	♂	村落付近	成鳥
6203	ハルビン市外巨源郷	1992. 2.19	♂	村落付近	亜成鳥
9204	ハルビン市外巨源郷	1992. 2.19	♀	村落付近	成鳥
9301	ハルビン市外成高子郷	1993. 12. 5	-	荒野	幼鳥
9302	ハルビン市外成高子郷	1993. 1.14	♀	荒野	亜成鳥
9401	吉林市外	1994. 11.10	♂	耕地	成鳥
9402	吉林市外	1994. 11.10	♀	耕地	成鳥
9403	吉林市外	1994. 11.20	♂	耕地	亜成鳥
9404	吉林市外	1994. 11.20	♀	耕地	成鳥
9501	黒龍江省阿城市赤夢村	1995. 10.16	-	村落付近	幼鳥
9502	黒龍江省阿城市赤夢村	1995. 10.18	-	村落付近	成鳥
9503	黒龍江省呼蘭市外	1995. 10.26	♂	村落付近	成鳥
9504	黒龍江省阿城市外	1995. 12. 7	♀	ダム付近	成鳥
9505	黒龍江省阿城市外	1995. 12. 8	♀	ダム付近	成鳥
9601	ハルビン市外	1996. 11. 2	♂	耕地	成鳥

図1 ケアシノスリ中央尾羽横斑の年齢差異

